

横浜湘南道路（圏央道〔栄IC・JCT～藤沢IC〕）

高速横浜環状南線等と共に圏央道を形成し、広域的な高速道路ネットワークを担い、横浜港との連絡強化による物流の効率化、並行する国道1号の渋滞緩和等に貢献することが期待されます。

横浜湘南道路は、横浜市、鎌倉市、藤沢市の3市を跨ぎ、路線の大部分をトンネル構造とする延長7.5kmの自動車専用道路です。

■計画の概要

計画区間	横浜市栄区田谷町～藤沢市城南1丁目		
規格	第1種第3級		
設計速度	80km/h	延長	約7.5km
道路幅員	22m（環境施設帯部57m）	車線数	4車線

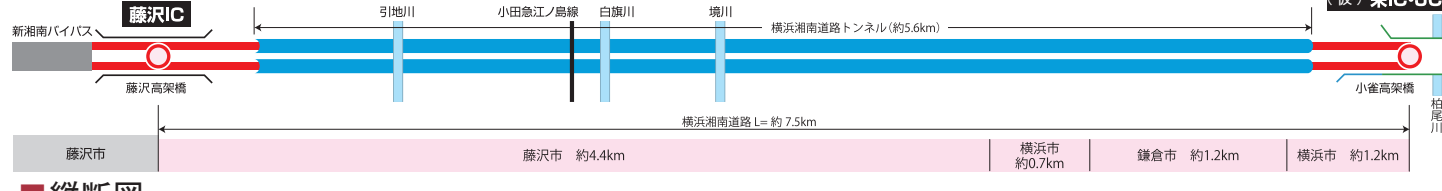
令和6年度の事業

調査設計、藤沢地区ほか用地買収、藤沢地区改良工事、小雀地区改良工事及び横湘トンネル工事を推進します。

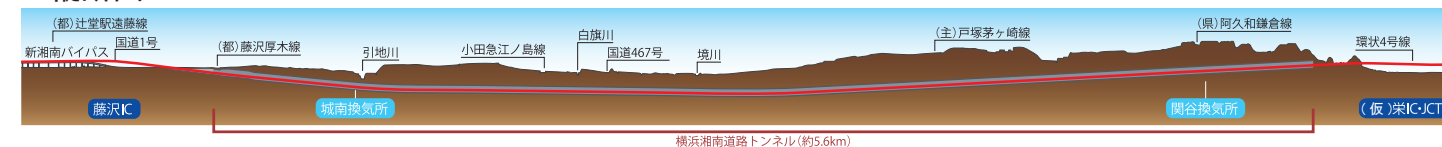
■事業位置図



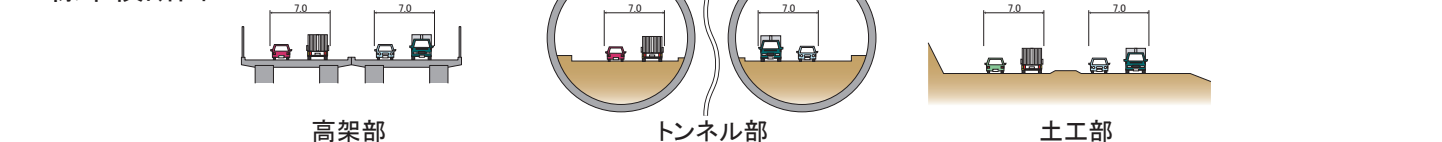
■概略図



■縦断面図



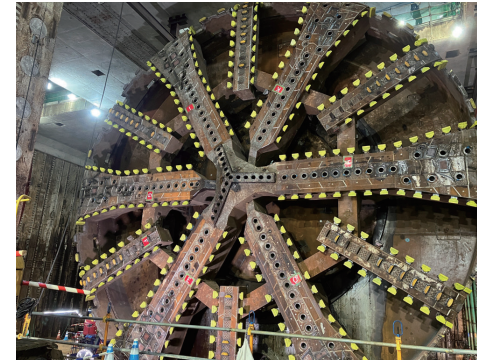
■標準横断面図



藤沢IC付近状況（令和5年10月撮影）



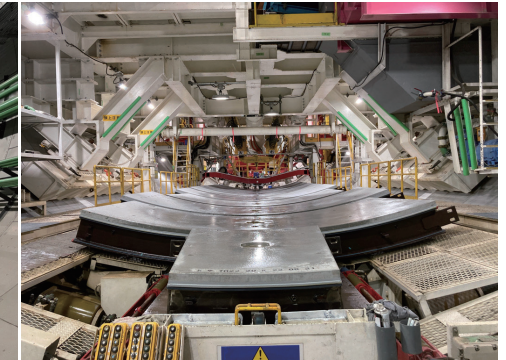
小雀高架橋付近状況（令和6年3月撮影）



シールドマシン1号機の状況（令和6年4月撮影）



シールドマシン2号機の状況（令和6年4月撮影）



コラム：「シールドトンネル工事の安全・安心な施工に関するガイドライン」に基づいた 周辺の生活環境への配慮について

シールドトンネルの掘進にあたっては、「シールドトンネル工事の安全・安心な施工に関するガイドライン（令和3年12月）」に基づいて、周辺の生活環境への影響モニタリング、騒音・振動対策を実施しています。

ガイドライン	横湘トンネル工事での取り組み
◎周辺の生活環境への影響のモニタリング - 地盤変位量（主に地表面の沈下量や沈下勾配）や地下水位等の工事箇所周辺の影響についてモニタリングを定期的に行うこと - 騒音・振動の影響についてのモニタリングを定期的に行うこと	地表面変位については、掘進影響範囲内において、管理値を設定し、地表面沈下量を1日1回測定しています。 騒音・振動については、切羽直上（地表面の状況により付近）にて掘進中の騒音・振動を計測しています。 トンネル周辺に地下水位観測孔を設置して、地下水位を自動計測しながら監視しています。
◎騒音・振動対策 状況に応じて、スキンプレートと地山との間への滑剤の充填のほか、掘進速度の調整等により、極力、騒音・振動の低減に努めること	振動・騒音の発生状況に応じて、シールド機外周への摩擦低減材の充填、掘進速度の調整等により対応することとしています。

